

オードリー・ヘプバーンが  
愛される7つの理由

# 幼くして 確立された 美意識

「あなたは少しも特別じゃないのよ」  
と言いつけた母親の存在



まだ若い無名時代のオードリーは  
躍動感に満ちていた

少女時代、母親のエッラは幼いオードリーをブリュッセルの劇場街へと頻りに連れ出し、例えば、当時の人気プリマ、マーゴ・フォンティーンが舞台上で舞う姿を娘の脳裏に焼き付けさせた。そうして、オードリーは女性の肉体の美しさや躍動美がどれほど得難く、人々を幸福にさせるかを、身を以て体験する。それは、まだ確立されてなかった少女の美意識を急速に成熟させ、10歳にも満たないオードリーは自分にとって美しいものは何か？を見極めることが出来る、ある意味、ませた子供になっていた。でも、確立された美意識は女性を本能的に引きつける。そのフェクトなサンプルがオードリーのものではない。

同時に、エッラは他の誰よりも美しく、個性的な女性に対して、これでもかき控えるよう諭し続けたと言われる。自分の立場を勘違いして、他人に対して不適な態度を取ることは、オランダ貴族の血を反することだったから。女優としてセンセーションを巻き起こし、空前の喧嘩の中で自己を見失いかけたオードリーにエッラは囁きかけたという。「あなたは人と比べて少しも特別じゃないのよ。だから、控えめでいなさい。そして、質素でいなさい。それこそがあなたらしい在り方なの」と。母親の徹底した自己抑制教育が、オードリーの人としての美意識を育成し、あのような光輝く世界を構築したわけで、返す返すも、女性にとって母親の存在は大きいと痛感せずにはいられない。



自分の掲載された記事を見るときも客観的な表情で

sample